

『若きロータリアンへ』

甲子園ロータリークラブに入会し、5年目に社会奉仕委員長に就任しました。

私が囑託医をしている「いずみ園」という知的障害者の訓練施設で、屋外の生ジャズ・パーティーを開催しました。

保健所への申請書や食事の準備で大変苦労しましたが、会員や会員家族の協力を得て大成功でした。

その時の施設利用者や家族の笑顔は忘れられません。

今まで見たこともないような笑顔で、ジャズに合わせて踊っているのです。それを見て保護者や家族が大喜びでした。後に保護者から大変丁寧な感謝の手紙を頂きました。私の宝物です。人の喜びや幸せが、自分をこんなにも幸福にしてくれるのだと初めて知り、私にとっての印象的な事業でした。

小児科医として大変忙しい日々を歩んできました。病院での救急医療は、息継ぐ暇もなく、人生など考える余裕もありません。開業して、ほっと一息ついた時、これから何を目標に生きていけばいいのか迷っていました。

その時、ロータリークラブと巡り会ったことが幸運だったと思います。それまでは、患者に尽くすことは当然と考えていましたが、人に尽くすという考えは全く持っていなかったのです。ロータリーの理念を聞かされた時には、半信半疑でした。

「Service above self」「自分より先に人の事を考えなさい」などという理念は、実践できるのだろうか？

疑問でした。例会に出席し、何度もこの理念を聞かされました。そして、実際に挑戦してみると、不思議と自分が幸せになることが実感されるようになってきたのです。その極めつけが先ほどお話した知的障害者施設でのジャズ・パーティーです。

今年度、会長に就任し第一に考えたことは、新型コロナウイルスから会員の命を守る事でした。

次に、ロータリーの理念については会長の時間に出来るだけ分かりやすくお話ししました。

私が実感した「人に尽くす事の喜びや幸せ」をクラブの皆様にも味わっていただきたいとの思いからです。ロータリーにはその機会がいっぱい溢れています。

今年度、サッカー少年の膝健診を実施しましたが、すばらしい事業だったと思います。これから、サッカーを続けて行きたい少年たちの夢を怪我などで潰さないようにすることがいかに大事なことを理解することが出来ました。また、その夢を膨らませる事がこの事業を導いていただいた寺尾会員、並びにこの事業に参加した人達の喜びになったと思います。

ロータリーには、皆様にとって幸せになる機会が溢れています。特に社会奉仕事業や地区補助金事業は絶好の機会です。

大きな事は、考えなくていいのです。

皆様の身近な事から始め、それがクラブの中で多くの会員を巻き込み、拡大し、大きく育って行くのです。まず、始めることが大切です。多くの幸せが待っています。

一緒に見つけに行きましょう。

